

■ご挨拶

9年越しの理事就任にあたって

日本風力発電協会 理事 秋吉清一郎
グリーンパワー株式会社 代表取締役



2005年に18年間勤めたNKKを離れ、グリーンパワー株式会社を設立しました。その後、JWPAの事務局を離れ暫く音沙汰のない日々を過ごしてきましたが、この度、縁あって理事として日本風力発電協会の発展と我が国の風力発電産業の確立を目指して再び陽の当たる場所に戻ってきました。この9年間、この国は大きな変化があったことは皆さんご存じの通りです。しかし社会の変化などと云うのは数年で完了するものではありません。絶え間ないエネルギーの注入が必要な事なのでしょう。そのために私のエネルギーも必要なのであればと思ってお引き受けした次第です。

事務局を去る前年、大島村役場と生月町役場（いずれも現平戸市）からの依頼を受けてNEDOの普及啓発事業の一環として講演会を行いました。この公演の中で、当時の世界の趨勢を九州大学の松宮暉先生に、国内の風力発電の現場の実情をIHIの久保典男氏にお願いし、私自身は大胆にも未来予測をさせていただきました。風力発電は太陽光発電や水力発電とハイブリット化し、蓄電池を経て安定的な電源として地域の生活を支え、島には電気自動車が走る。そんな未来図だったと思います。この10年、再生可能エネルギーに限らず各々の分野で様々な人々が汗と恥をかき、それでも足と手を動かした結果が今目の前にある姿なのだと思います。

かつて青森で蓄電池併設型の風力発電所が出来た時に「あんなの誰にでも出来る」と揶揄した人を知っています。その時、私は言いました「やらずに評論するだけだったら誰にでも出来る」と。

固定価格全量買い取り制度は将来のこの国の姿を案じた極めて少数の有志による、まさに身を削る交渉の賜物なのではないでしょうか。

1980年代に風力発電がハイコストの烙印を

押された時、あえて起業した人がいます。彼がいなければ我々は、もちろん私自身も今頃別な仕事をやっていたことでしょう。この早過ぎた起業家は未だ顧みられることなく雌伏の時を過ごしています。

会社に莫大な損失を与えてもなお、責任をとり続けている人達があります。恐らく社内での評判は最悪なのでしょうが、こういった人達のおかげでいくつもの風力発電事業者が育ちました。もちろん私の知らないところでも大勢の人が汗を拭う間もなく手を動かしていることでしょう。

こういう先人から託された襁を次の10年に繋ぐことが私たちの使命なのだと思います。

今、我が国の風力発電は大きく巣立ち我が国を代表する産業の一つとなるのか、単なる一時代の流行り物で終わるのか、大きな岐路に立たされているように見えます。そんな時節なのですが、残念ながら私には地道な努力は出来ませんが、しかし大企業であるがゆえに出来ないことであれば、大概のことは出来る蓄えを9年かけて作りました。風力という自然を相手にする技術と発電という社会の礎となるエネルギーから産み出される新しい事業が、更なる10年を指し示す事を信じ、出し惜しみすることなくこの国のために尽力しようと思います。